

## カナダ高配当株ツインα (毎月分配型)

追加型投信／海外／株式

第59期 2018年5月17日決算 第60期 2018年6月18日決算  
 第61期 2018年7月17日決算 第62期 2018年8月17日決算  
 第63期 2018年9月18日決算 第64期 2018年10月17日決算  
 作成対象期間 (2018年4月18日～2018年10月17日)

第64期末 (2018年10月17日)	
基準価額	2,235円
純資産総額	51,541百万円
第59期～第64期	
騰落率	+3.0%
分配金合計	300円

\*騰落率は収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

◆運用報告書(全体版)は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

◆当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)については、以下の手順で閲覧およびダウンロードすることができます。

<閲覧方法>

下記ホームページアドレスにアクセス⇒「ファンド情報」を選択⇒「ファンド検索」を選択⇒「ファンド名で検索」にファンド名を入力\*⇒該当のファンドを選択⇒「運用実績・レポート」を選択⇒「運用報告書(全体版)」を選択

※償還の場合は、「償還ファンド一覧」を選択

ホームページアドレス  
<https://www.daiwasbi.co.jp/>



お問い合わせ先

受付窓口：(電話番号) 0120-286104

受付時間：午前9時から午後5時まで(土、日、祝日除く。)

※お客様のお取引内容につきましては、ご購入された販売会社にお問い合わせください。

### 受益者の皆様へ

毎々、格別のお引き立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

さて「カナダ高配当株ツインα(毎月分配型)」は、このたび、第59期から第64期の決算を行いました。

当ファンドは、主として円建て外国投資信託証券への投資を通じて、カナダの高配当株式への投資に加え、「株式カバードコール戦略」および「通貨カバードコール戦略」を組み合わせることで、高水準のインカムゲインとオプションプレミアムの確保、ならびに中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

大和住銀投信投資顧問株式会社は、関係当局の認可等を得ることを前提に、2019年4月1日に三井住友アセットマネジメント株式会社と合併し、三井住友D Sアセットマネジメント株式会社となる予定です。

資産運用のベストパートナー、だいわすみぎん

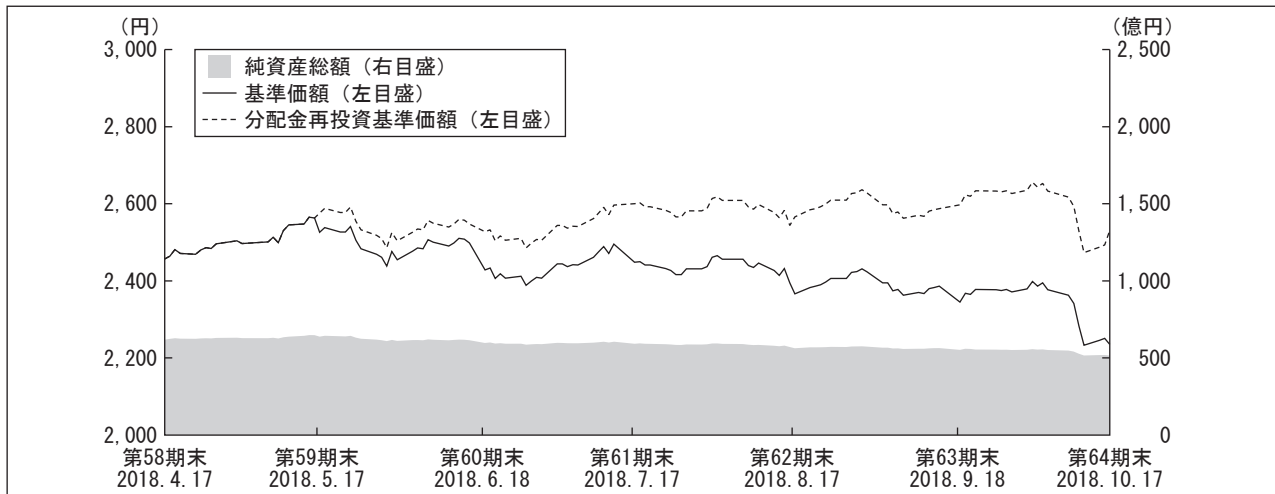


大和住銀投信投資顧問

Daiwa SB Investments

## 運用経過

## 【基準価額等の推移】



\*当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

\*分配金再投資基準価額は、作成期首の基準価額を基準に算出しております。

\*分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

\*分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

第59期首：2,457円

第64期末：2,235円（作成対象期間における期中分配金合計額 300円）

騰落率：+3.0%（分配金再投資ベース）

## 【基準価額の主な変動要因】

当ファンドは、Principal/CS Canadian Equity Income Fund Twin Alpha Classへの投資を通じて、カナダの高配当株式への投資に加え、「株式カバードコール戦略」および「通貨カバードコール戦略」を組み合わせて運用を行いました。

（上昇要因）

セクター別では、金融、資本財・サービス、コミュニケーション・サービスなどが上昇し、プラス寄与となりました。個別銘柄では、個人向け事業が堅調なトロント・ドミニオン銀行、業績が好調に推移しているカナディアン・パシフィック鉄道、合併の効果や見通しが良好なニュートリエンなどが大きく上昇し、プラス寄与となりました。

また、カナダドルが対円で上昇したこともプラスに寄与しました。

（下落要因）

セクター別では、一般消費財・サービス、エネルギーがマイナスに作用しました。個別銘柄では、生産見通しが不安視されたカナディアン・ナチュラルリソースズ、コストが上昇傾向にあるバンク・オブ・ノバスコシア、通商協定の不透明感からマグナ・インターナショナルなどが下落し、マイナスに作用しました。

また、株式カバードコール戦略や通貨カバードコール戦略もマイナスに作用しました。

## 【1万口当りの費用明細】

項目	第59期～第64期		項目の概要
	2018年4月18日～2018年10月17日		
	金額	比率	
信託報酬	17円	0.680%	信託報酬＝作成期中の平均基準価額×信託報酬率 作成期中の平均基準価額は2,435円です。
（投信会社）	（6）	（0.229）	ファンドの運用等の対価
（販売会社）	（11）	（0.438）	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
（受託会社）	（0）	（0.014）	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
その他費用	0	0.002	その他費用＝作成期中のその他費用÷作成期中の平均受益権口数
（監査費用）	（0）	（0.002）	監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（その他）	（0）	（0.000）	信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等
合計	17	0.682	

\* 「比率」欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

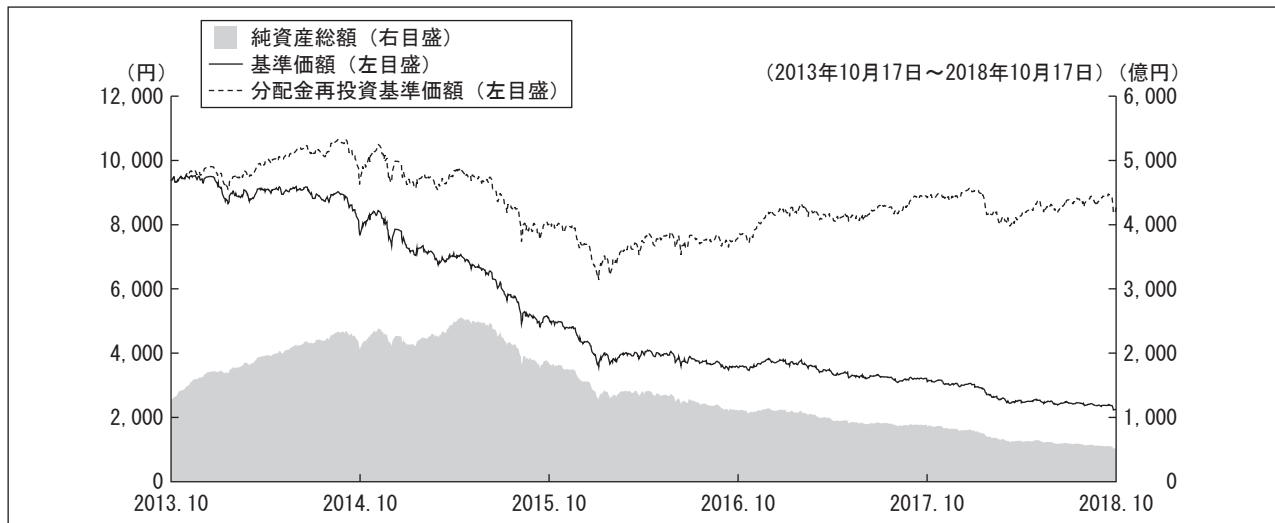
\* 作成期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む。）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

なお、その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託受益証券が支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

\* 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

\* 各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

## 【最近5年間の基準価額等の推移】



\*当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

\*分配金再投資基準価額は、2013年10月17日の基準価額を基準に算出しております。

\*分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

\*分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

	2013年10月17日 期初	2014年10月17日 決算日	2015年10月19日 決算日	2016年10月17日 決算日	2017年10月17日 決算日	2018年10月17日 決算日
基準価額 (円)	9,364	7,693	4,976	3,546	3,114	2,235
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	1,800	1,800	1,120	960	780
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	0.5	△ 14.7	△ 5.3	16.2	△ 3.4
純資産総額 (百万円)	126,510	207,313	181,606	110,363	85,858	51,541

## 【投資環境】

当作成期のカナダ株式市場は上昇しました。当作成期は、地政学リスクや貿易摩擦への懸念が高まり、米中が追加関税を発動したことで貿易摩擦が拡大する場面もありましたが、株式市場への影響は限定的で、好調な企業業績が株価を押し上げました。企業業績は、特に米国において予想を上回る好業績となりましたが、カナダを含む他の先進国でも順調でした。

原油価格は、イランからの供給が減少しても、OPEC（石油輸出国機構）加盟国およびロシアなどが増産に動かないとの観測で上昇しました。作成期中は、米国の堅調な景気を背景に米ドルが他通貨に対して総じて上昇し、カナダドルも日本円も対米ドルで下落しましたが、カナダドルは対円では上昇（円安・カナダドル高）しました。

国内短期金融市場では、作成期初 $-0.17\%$ 近辺でスタートした国庫短期証券3ヵ月物の利回りは、 $-0.1\%$ ～ $-0.2\%$ の狭いレンジでの推移に終始しました。作成期末にかけて海外投資家による短期の国債への需要の高まりを受けてマイナス幅を大幅に拡大し、 $-0.3\%$ 近辺で作成期末を迎えました。

## 【ポートフォリオ】

### ■カナダ高配当株ツイン $\alpha$ （毎月分配型）

主要投資対象であるPrincipal/CS Canadian Equity Income Fund Twin Alpha Classを作成期を通じて高位に組み入れ、作成期末の投資信託証券組入比率は $97.1\%$ としました。

### ■Principal/CS Canadian Equity Income Fund Twin Alpha Class

持続的に高い配当の支払いを行うことが可能な銘柄を中心に、事業ファンダメンタルズ（基礎的条件）とバリュエーション（投資価値評価）が魅力的な銘柄を多く組み入れました。

株式市場では上昇が続いたことから、大幅な価格上昇によって割安感が薄れた銘柄や、業績見通しに対して割高になったと判断した銘柄を売却しました。一方、株価が出遅れている高配当銘柄、および業績が好調に推移する見通しの銘柄の比率を引き上げました。この結果、消費関連銘柄の比率が下がり、不動産や防衛産業関連銘柄の比率が上がりました。

また、株式への投資に加え、カナダ株価指数のコールオプションの売りを行う株式カバードコール戦略および円に対するカナダドルのコールオプションの売りを行う通貨カバードコール戦略を活用し、運用を行いました。

### ■キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

安全性と流動性を考慮し、短期の国債・政府保証債を中心とした運用を行いました。年限に関しては、残存6ヵ月以内の短期の国債・政府保証債を中心とした運用を継続しました。

## 【ベンチマークとの差異】

当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

## 【分配金】

収益分配金は、分配可能額、基準価額水準等を勘案し、第59期～第64期の各期において50円とさせていただきます。（1万口当り税込み）

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用を行います。

## ■分配原資の内訳

（1万口当り・税引前）

項目	第59期	第60期	第61期	第62期	第63期	第64期
	2018年4月18日 ～2018年5月17日	2018年5月18日 ～2018年6月18日	2018年6月19日 ～2018年7月17日	2018年7月18日 ～2018年8月17日	2018年8月18日 ～2018年9月18日	2018年9月19日 ～2018年10月17日
当期分配金 (円)	50	50	50	50	50	50
（対基準価額比率） (%)	1.94	2.02	2.00	2.07	2.09	2.19
当期の収益 (円)	—	—	—	—	—	—
当期の収益以外 (円)	50	50	50	50	50	50
翌期繰越分配対象額 (円)	1,670	1,620	1,570	1,520	1,471	1,421

※円未満を切り捨てしているため、「当期分配金」は「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計額と一致しない場合があります。

※当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

## 今後の運用方針

### ■カナダ高配当株ツインα（毎月分配型）

引き続き、運用の基本方針に従い、主として円建て外国投資信託証券への投資を通じて、カナダの高配当株式への投資に加え、「株式カバードコール戦略」および「通貨カバードコール戦略」を組み合わせることで、高水準のインカムゲインとオプションプレミアムの確保、ならびに中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。

### ■Principal/CS Canadian Equity Income Fund Twin Alpha Class

当ファンドでは、金融の中でも特に銀行銘柄の保有を多めとしています。銀行はコスト管理の厳格化を進めている上に、不良債権は予想よりも低水準で推移しています。また、富裕層向け事業と貸出残高の拡大も業績に寄与する見通しです。米10年国債利回りが3%を上回って推移していることも、今後のカナダにおける金利見通しに影響すると考えます。BOC（カナダ銀行：中央銀行）は、7月に利上げを実施し、2019年以降のカナダ経済成長見通しを若干ながら上方修正しました。市場では、年内にさらに1回の利上げが織り込まれています。銀行は、金利上昇によって利鞘収入拡大の恩恵が期待されます。

市場では、地政学的な不透明感や財政政策、規制の変更などがリスクとして認識されています。直近数年間は、政策や金融政策が投資家心理に大きく影響していますが、マクロ環境見通しに基づいたトップダウンの銘柄選択よりも、個別企業の分析に基づくボトムアップの銘柄選択が重要であると考えます。今後もボトムアップにより、高い配当の支払いを行う銘柄の中でも事業ファンダメンタルズや投資家の期待の上昇が見込まれる銘柄への投資を行っていく方針です。

また、引き続き株式への投資に加え、カナダ株価指数のコールオプションの売りを行う株式カバードコール戦略および円に対するカナダドルのコールオプションの売りを行う通貨カバードコール戦略を活用し、オプションプレミアムの確保を目指します。

### ■キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

日本銀行の「長短金利操作付き量的・質的緩和」への政策枠組み変更後も、残存1年未満の国債・政府保証債の市場利回りはマイナス圏で推移しています。引き続き、安全性と流動性をもっとも重視したスタンスでの運用を継続し、短期の国債・政府保証債を中心とした運用を行っていきます。日本銀行による金融緩和政策が続くため、短期金利の上昇リスクは限定的と予想します。ファンドの平均残存年限については2～4ヵ月程度を目安に短めを基本とする方針です。

## お知らせ

該当事項はございません。

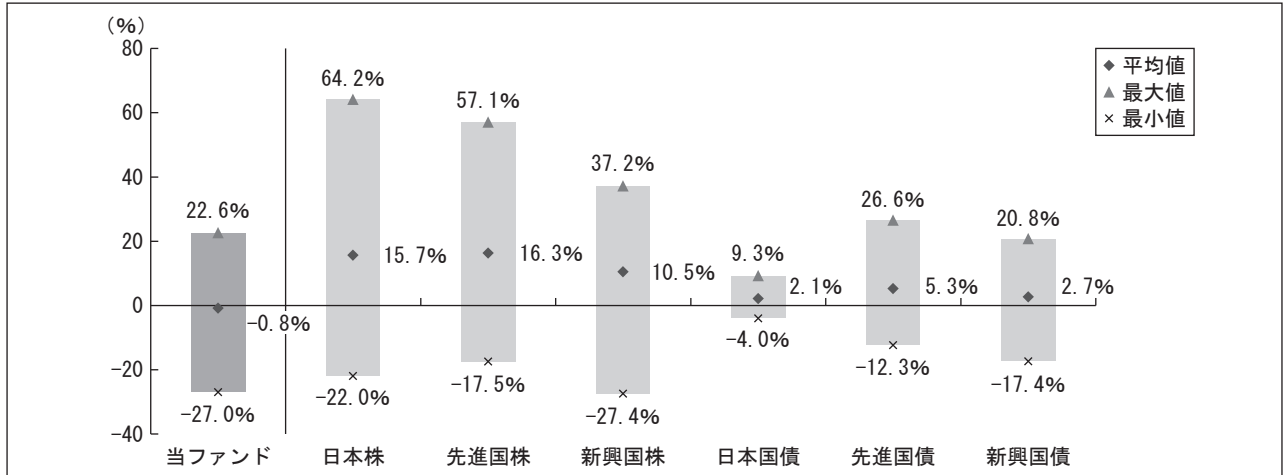
## 当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	2013年4月26日～2023年4月17日（約10年）	
運用方針	主として円建て外国投資信託証券への投資を通じて、カナダの高配当株式への投資に加え、「株式カバードコール戦略」および「通貨カバードコール戦略」を組み合わせることで、高水準のインカムゲインとオプションプレミアムの確保、ならびに中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。なお、親投資信託であるキャッシュ・マネジメント・マザーファンド受益証券へも投資を行います。	
主要投資対象	当ファンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>Principal/CS Canadian Equity Income Fund Twin Alpha Class受益証券</li> <li>キャッシュ・マネジメント・マザーファンド受益証券</li> </ul>
	Principal/CS Canadian Equity Income Fund Twin Alpha Class	<ul style="list-style-type: none"> <li>カナダの株式等</li> <li>スワップ取引を通じた株価指数オプション取引、通貨オプション取引の活用</li> </ul>
	キャッシュ・マネジメント・マザーファンド	本邦通貨建て公社債および短期金融商品等
当ファンドの運用方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファンド・オブ・ファンズ方式で運用します。</li> <li>Principal/CS Canadian Equity Income Fund Twin Alpha Classにおいては、カナダ株式の配当利回り水準に着目し、相対的に配当利回りの高い銘柄の中から、個々の企業のファンダメンタルズを勘案して銘柄を選定します。</li> <li>Principal/CS Canadian Equity Income Fund Twin Alpha Classへの投資比率は、原則として高位を保ちます。</li> <li>実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。</li> <li>株式への投資に加え、株式カバードコール戦略と通貨カバードコール戦略の組み合わせであるツインα戦略を行うことで、オプションプレミアムの確保を目指します。</li> </ul>	
分配方針	<p>毎月17日（休業日の場合は、翌営業日）の決算日に、収益分配金額は経費控除後の利子・配当収益および売買益（評価損益も含まれます。）等の中から、基準価額水準、市況動向等を勘案して、委託者が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には分配を行わないことがあります。</p> <p>*分配金再投資コースの場合、分配金は税金を差し引いた後自動的に無手数料で再投資されます。</p>	



## 【当ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較】

当ファンド：2014年4月～2018年9月  
 代表的な資産クラス：2013年10月～2018年9月



●上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

\*当ファンドと代表的な資産クラスのデータの期間が異なりますので、ご注意ください。

\*全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

\*当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

\*騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

## ＜各資産クラスの指数について＞

資産クラス	指数名	権利者
日本株	TOPIX（配当込み）	株式会社東京証券取引所
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）	MSCI Inc.
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）	MSCI Inc.
日本国債	NOMURA-BPI国債	野村証券株式会社
先進国債	FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）	FTSE Fixed Income LLC
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド（円ベース）	J.P.Morgan Securities LLC

(注) 上記指数に関する著作権等の知的財産権およびその他一切の権利は、各権利者に帰属します。各権利者は、当ファンドの運用に関して一切の責任を負いません。

## 当該投資信託のデータ

### 《当該投資信託の組入資産の内容》

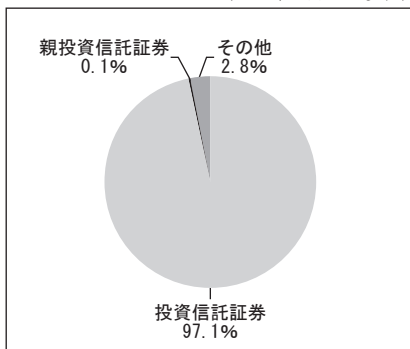
#### 【組入ファンド】

	第64期末（2018年10月17日）
	組入比率
Principal/CS Canadian Equity Income Fund Twin Alpha Class	97.1%
キャッシュ・マネジメント・マザーファンド	0.1%

\* 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

#### 【資産別配分】

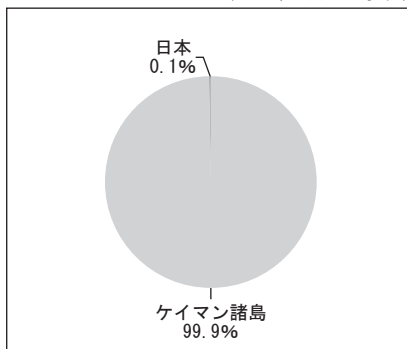
(2018年10月17日現在)



\* 純資産総額に対する評価額の割合

#### 【国別配分】

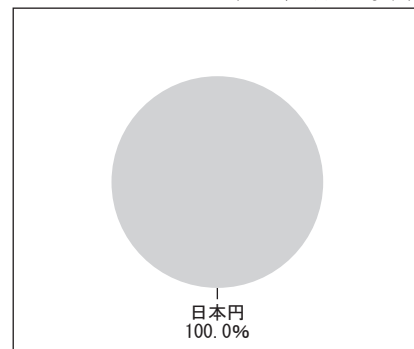
(2018年10月17日現在)



\* ポートフォリオ部分に対する評価額の割合

#### 【通貨別配分】

(2018年10月17日現在)



\* ポートフォリオ部分に対する評価額の割合

#### 【純資産等】

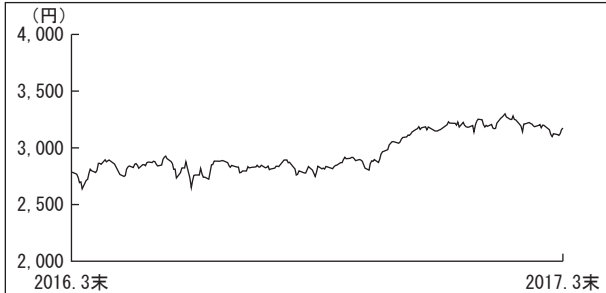
項目	第59期末	第60期末	第61期末	第62期末	第63期末	第64期末
	2018年5月17日	2018年6月18日	2018年7月17日	2018年8月17日	2018年9月18日	2018年10月17日
純資産総額	63,809,025,617円	59,701,743,479円	59,175,278,273円	56,277,471,643円	55,222,762,266円	51,541,859,604円
受益権総口数	252,631,091,351口	245,925,349,828口	241,743,241,353口	237,908,597,122口	235,517,074,695口	230,634,981,838口
1万口当り基準価額	2,526円	2,428円	2,448円	2,366円	2,345円	2,235円

\* 当作成期間中における追加設定元本額は16,284,234,627円、同解約元本額は37,223,183,898円です。

## 《組入ファンドの概要》

### ■Principal/CS Canadian Equity Income Fund Twin Alpha Class

#### 【基準価額の推移】



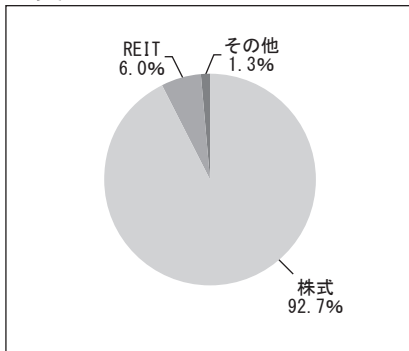
\*上記グラフは、基準価額に分配金を分配時に再投資したものとして表示しております。

### Principal/CS Canadian Equity Income Fund

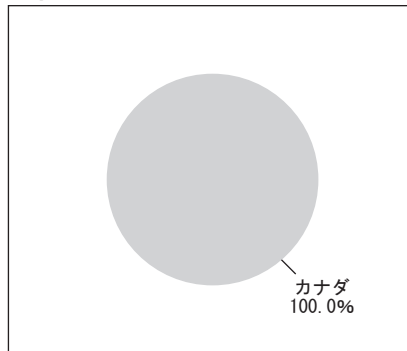
#### 【1万口当りの費用明細】

費用については、開示されていないため、掲載しておりません。

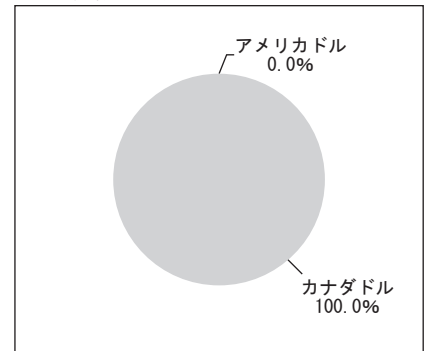
#### 【資産別配分】



#### 【国別配分】



#### 【通貨別配分】



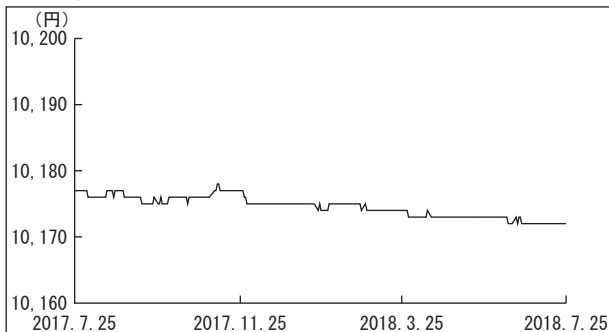
#### 【組入上位銘柄】

順位	銘柄名	業種名	比率
1	カナダロイヤル銀行	金融	8.2%
2	トロント・ドミニオン銀行	金融	7.3%
3	バンク・オブ・ノバスコシア	金融	6.6%
4	カナディアン・ナショナル・レールウェイ	資本財サービス	4.6%
5	サンコア・エナジー	エネルギー	3.9%
6	バンク・オブ・モンテリオール	金融	3.9%
7	トランスカナダ	エネルギー	3.5%
8	マニユライフ・ファイナンシャル	金融	3.1%
9	カナディアン・ナチュラルリソース	エネルギー	3.1%
10	エンブリッジ	エネルギー	2.6%

(組入銘柄数 104銘柄)

※ 資産別配分および通貨別配分は2017年3月末現在のPrincipal/CS Canadian Equity Income Fundの純資産総額に対する比率です。  
 ※ 国別配分および組入上位銘柄は2017年3月末現在のPrincipal/CS Canadian Equity Income Fundの組入株式等の時価評価額合計に対する比率です。  
 ※ 資産別配分におけるその他にはリミテッド・パートナーシップを含みます。  
 ※ 組入上位銘柄における業種名は世界産業分類基準（GICS）です。  
 ※ 当ファンドの運用報告書作成時点において、入手可能な直前計算期間のPrincipal/CS Canadian Equity Income Fundの情報を記載しております。  
 ※ 詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。  
 ※ 上記はプリンシパル・グローバル・インベスターズLLCから提供されたデータに基づき作成しております。

## ■キャッシュ・マネジメント・マザーファンド 【基準価額の推移】



## 【1万口当りの費用明細】

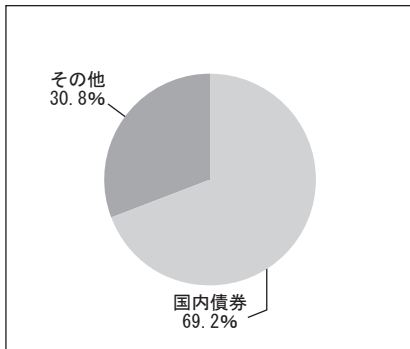
(2017年7月26日～2018年7月25日)

項目	金額
その他費用 (その他)	0円 (0)
合計	0

\*費用項目については、2ページの項目の概要をご参照ください。  
\*期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む。）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。  
\*円未満は四捨五入しています。

## 【資産別配分】

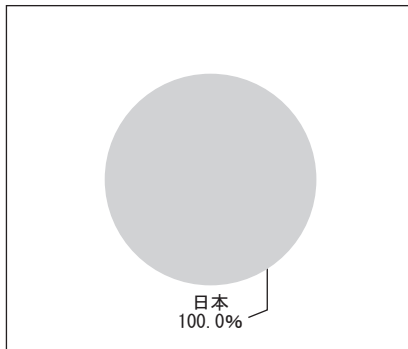
(2018年7月25日現在)



\*純資産総額に対する評価額の割合

## 【国別配分】

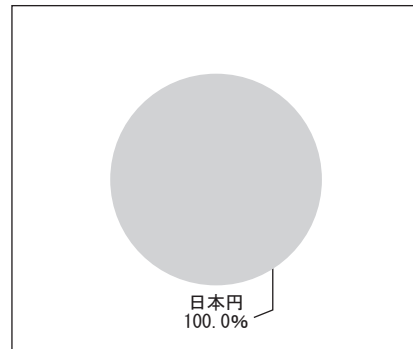
(2018年7月25日現在)



\*ポートフォリオ部分に対する評価額の割合

## 【通貨別配分】

(2018年7月25日現在)



\*ポートフォリオ部分に対する評価額の割合

## 【組入上位銘柄】

(2018年7月25日現在)

銘柄名	比率
1 6政保地方公共6年	14.5%
2 67 政保道路機構	8.7%
3 64 政保道路機構	7.1%
4 66 政保道路機構	4.7%
5 2 政保地方公共団	2.7%
6 77 政保道路機構	2.5%
7 304 北海道電力	2.3%
8 7 西日本旅客鉄道	2.3%
9 71 共同発行地方	2.3%
10 20-16 兵庫県公債	2.3%

(組入銘柄数 19銘柄)

\*比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

※ 全銘柄に関する詳細な情報および直近の計算期間の運用経過等につきましては、運用報告書（全体版）に記載されています。

※ 基準価額の推移、1万口当りの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

※ 資産別配分、国別配分、通貨別配分、組入上位銘柄は組入ファンドの直近の計算期間末日のものです。